

教 科		国 語		科 目	古 典 A	単位数	3
学 年		2 年		類 型	情報ビジネス科A類型		
教科書（出版社）		古典A（三省堂）					
副教材（出版社）							
授業の概要		1 古文、漢文の朗読や暗唱をしたり、話のおもしろさを味わったりする。 2 古文、漢文や古典に関連する文章を読んで、現代を生きる我々と古典との関わりについて話し合ったり、意見をまとめたりする。					
授業の目標		古文、漢文を読むことによって古典に触れる楽しさを味わい、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 イン트로ダクション ・恵心僧都の母 2 イン트로ダクション ・朝三暮四 3 宇治拾遺物語 ・百鬼夜行 ・絵仏師の執心 4 イン트로ダクション ・杞憂 5 漢文のとびら①			・古文に描かれた人々のものの見方や感じ方に関心を持つ。 ・歴史的仮名遣いなどに注意しながら音読する。 ・漢文訓読の決まりについて理解し、それらに注意して音読する。 ・自分の生活に関わりの深い故事成語についてまとめる。 ・話の展開に沿って、登場人物の心情を読み取る。 ・説話の世界観や、登場する人物の特異性について理解する。 ・故事成語に興味を持ち、実際に使ったり、調べたりする。		
	2 学 期	1 宇治拾遺物語 ・袴垂と保昌 ・後の千金 2 論語 ・孔子の人となり 他 3 老子 ・大道廢れて、仁義あり 他 4 今昔物語集 ・姥母捨山 ・武士の祭り見物 5 古文のとびら① 6 漢詩 ・絶句			・話の展開を順を追って理解し、理解したことを説明したり、それについて話し合ったりする。 ・孔子の考えに興味を持ち、現在に照らし合わせて考える。 ・老子の考えを示す場面や比喻を正確に読み取り、その思想を追究する。 ・説話の持つ教訓の意味について考える。 ・登場人物の心情の変化を順を追って理解し、そのおもしろさを説明する。 ・古典を読み比べ、その違いやおもしろさについて意見をまとめる。 ・描かれた情景、作者の心情をイメージしながら音読し、そのリズムのよさを味わう。		
	3 学 期	1 十訓抄 ・行成と実方 2 三国志 ・三たび往きて、乃ち見る 3 漢詩 ・律詩			・登場人物の様子や態度から、その性格や心情をとらえる。 ・文章表現の特徴を理解し、一部を現代語に直す。 ・登場人物の立場や関係を理解し、場面状況と登場人物の心情を自分の言葉で説明する。 ・描かれた情景、作者の心情をイメージしながら音読し、そのリズムのよさを味わう。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしているか。				まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させているか。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けているか。	
備 考	3つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科	公 民	科 目	現代社会	単位数	2
学 年	2 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）	改訂版 高等学校 現代社会（数研出版）				
副教材（出版社）	新版 テーマ別資料 クローズアップ現代社会（第一学習社）				
授 業 の 概 要	教科書に沿って、本文の内容を理解する。概論だけでなく、時事的トピックも扱いながら現代社会への認識を深める。				
授 業 の 目 標	広い視野から現代社会の基本的な問題について理解を深め、人間としての在り方生き方について主体的かつ公正に判断、考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）	学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 私たちの生きる社会 第1章 地球環境問題 第2章 資源・エネルギー問題 第3章 生命をめぐる問題 第2編 現代社会と人間としての在り方生き方 第1章 青年期と自己の形成	現代社会の諸課題を通して、社会の在り方を考察する基礎を理解し、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚する。 倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会などといった多様な角度から現代社会を理解し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。		
	2 学 期	第2章 現代の民主政治と政治参加の意義 (1)民主政治の基本原則 (2)日本国憲法と基本的人権 (3)日本の政治機構 (4)政治参加と民主政治の課題 第3章 現代の経済社会と経済活動のあり方 (1)経済のしくみと市場機構	倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会などといった多様な角度から現代社会を理解し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。		
	3 学 期	(2)財政と金融 (3)日本経済の発展と変化 (4)豊かな生活と福祉の実現 第4章 国際社会の動向と日本の役割 第3編 ともに生きる社会をめざして	持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を主体的に探究し、現代社会に対する理解を深め、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解
	社会や人間に関わる問題を意欲的に追究し、平和で民主的な社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。		社会や人間に関わる課題を見だし、広い視野に立って多角的に考察し、社会の変化や立場、考え方を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	社会や人間に関わる問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有効な情報を適切に選択して、効果的に活用する学び方を身に付けている。	現代社会の異本的な問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。
備 考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教 科		数 学		科 目	数 学 A	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科		
教科書(出版社)		改訂版 最新 数学 A (数研出版)					
副教材(出版社)		改訂版 パラレルノート 数学 A (数研出版)					
授業の概要		場合の数と確率では、条件つき確率まで学習する。整数の性質ではユークリッドの互除法を使い、応用問題にも対応できるように学習する。図形の性質は平面の性質から空間の性質を考えられるように学習する。					
授業の目標		数学では自ら考え、かつ実際に計算や推論をしないと数学の考え方が身につかない。例題から練習問題を通して、応用問題にも、強いられてするのではなく、数学のもっている面白さにつられて自然に挑戦する態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容(単元・項目)			学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 第 2 節 確率			・ 樹形図などを利用した個数の数え方について学び、また、和の法則、積の法則が成り立つのはどのような場合なのかを理解し、各場合に適切な応用ができるようにする。独立試行の典型的な例であり、最も重要な例でもある反復試行の確率を理解する。このとき、組合せを用いることを理解する。		
	2 学 期	第 2 節 確率 3 章 整数の性質 第 1 節 約数と倍数 第 2 節 ユークリッドの互除法 第 3 節 整数の性質の活用 第 2 章 図形の性質 第 1 節 平面図形			・ 具体例を通して、条件付き確率と乗法定理の考え方を理解する。 ・ 整数の性質を利用し、倍数の判定の仕方を学び、その方法を習得する。素因数分解を利用した最大公約数、最小公倍数の求め方を理解する。ユークリッドの互除法によって 2 つの数の最大公約数を求め、不定方程式の 1 つの整数解を求められるようにする。2 進法で表された数を 10 進法に直し、また、その逆をできるようにする。 ・ 線分の内分・外分を理解する。三角形の内角の二等分線と比の定理を理解する。三角形の重心、外心、内心の関係を理解する。		
	3 学 期	第 1 節 平面図形 第 2 節 空間図形			・ チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用できるようになる。 ・ 円の接線と弦のつくる角の定理を理解する。方べきの定理を理解する。2 つの円の関係を理解し、その共通接線に関する問題に活用できるようになる。平行接線の作図やその応用ができるようになる。 ・ 空間における直線や平面の位置関係について理解する。多面体の性質を理解する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方		数学的な技能		知識・理解
	関心を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用できるか。		事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるか。		事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決できるか。		基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けているか。
備 考	4 つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとまりごとに評価し、100 点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科		理 科		科 目	物理基礎	単位数	2
学 年		2 年		類 型	情報ビジネス科		
教科書（出版社）		改訂版 新編 物理基礎（数研出版）					
副教材（出版社）		改訂 ネオパルノート物理基礎（第一学習社）					
授 業 の 概 要		日常に起こる物体の運動や様々な物理現象を観察、実験などを通して探求し、その基本的な概念や法則を理解し、運動とエネルギーについて、物理現象とエネルギーについて基礎的な見方や考え方を身に付ける。					
授 業 の 目 標		日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 運動とエネルギー 1章 運動の表し方 2章 運動の法則 3章 仕事と力学的エネルギー 第2編 熱 1章 熱とエネルギー			・身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解する。 ・直線運動と加速度について理解する。 ・運動の三法則を理解する。 ・物体に働く力と運動の関係について理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する。 ・熱と温度について、熱運動という視点から理解する。 ・熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する。		
	2 学 期	第3編 波 1章 波の性質 2章 音 第4編 電気 1章 物質と電気抵抗 2章 磁場と交流			・波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解する。 ・気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。 ・物質によって抵抗率が異なることを理解する。 ・交流の発生、送電及び利用について、基本的な仕組みを理解する。		
	3 学 期	第5編 物理学と社会 1章 エネルギーの利用 2章 物理学が拓く世界			・人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な視点から理解する。 ・「物理基礎」で学んだ事柄が、日常生活やそれを支えている科学技術と結びついていることを理解する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		観察・実験の技能		知識・理解
	・身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。		・簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。		・実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行う。 ・実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。		・学習内容について理解を深めることができる。 ・観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。 また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科		理 科		科 目	生物基礎	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		改訂版 新編 生物基礎（数研出版）					
副教材（出版社）		改訂版 スタディアップノート 生物基礎（数研出版）					
授 業 の 概 要		教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。					
授 業 の 目 標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	序章―生命の探究― 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき			・生物基礎で学習する内容の概要を把握し、探究活動とは何かについて理解する。 ・生物の共通性と多様性について学習し、細胞の構造や呼吸、光合成について理解を深める。 ・遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝情報について理解を深める。 ・生命現象におけるタンパク質合成のしくみについて学習する。		
	2 学 期	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境とその維持 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布			・多細胞動物の体液は、細胞にとっての環境（体内環境）であることを理解する。また体内環境がほぼ一定に保たれているしくみについて理解を深めながら、循環系・腎臓と肝臓の構造とはたらきや自律神経系と内分泌系、免疫のしくみについて学習する。 ・植生について、その構造や遷移について学習する。		
	3 学 期	第5章 生態系とその保全			・地球上のバイオームの分布や、バイオームの種類と気温・年降水量の関係について理解する。 ・生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。また、地球レベルの環境問題を取り上げながら、自然環境の保全が大切であることを理解する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		観察・実験の技能		知識・理解
	身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。		簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。 生物の多様性と共通性を理解し、適切に表現することができる。		実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行うことができる。 実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。		学習内容について理解を深め、適確に考察することができる。 観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価する。また、学年末の評価は各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		保健体育		科 目	体 育	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート 改訂版（大修館書店）					
授業の概要		各運動の特性を踏まえ、運動の学び方及び体力の高め方の一般原則運動と心身の働きの関係、運動に伴う事故の防止、運動とかかわりのある健康・安全に関する知識などの科学的な理解に基づいて運動を実践します。					
授業の目標		1 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる能力や態度を育成します。 2 集団行動を正しく理解し、秩序正しく能率的に行う能力を養い、体育実技において安全と運動効率の向上を目的とし、服装の徹底と自己管理を行う資質を育成します。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 体づくり運動 （1）体ほぐしの運動 ア 集団行動（基本動作） イ ストレッチング （2）体力を高める運動 ア 時間走 イ 持久走（新体力テスト） 2 球技選択Ⅰ （1）バドミントン （2）テニス （3）卓球 3 体育理論Ⅰ			・基本的な集団行動の定着と日々の活動の中での応用を目指します。 ・主運動を行う前の、正確な体操及びストレッチを学びます。 ・自分の体力の実態を知るため、体力テストを行います。 ・集団的技能や個人技能の程度に応じてゲームができるようになります。 ・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。 ・運動・スポーツの文化的特徴について学びます。		
	2 学 期	4 球技選択Ⅱ （1）ソフトボール （2）バレーボール （3）バスケットボール （4）ハンドボール 5 体育理論Ⅱ			・集団的技能や個人技能の程度に応じてゲームができるようになります。 ・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。 ・運動・スポーツの文化的特徴について学びます。		
	3 学 期	6 陸上競技（長距離走） 時間走・記録測定 （男子 3000m・女子 1500m） 7 体育理論Ⅲ			・一定の長い距離を走る中で、自分に合ったペースコントロールが分かり、自己記録を更新できるよう挑戦します。 ・運動・スポーツの文化的特徴について学びます。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		運動の技能		知識・理解
	・運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 ・公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。		・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出している。 ・課題解決を目指し、工夫している。		・運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する事項を理解し、身に付けている。		・自己体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに 100 点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	保健体育		科 目	保 健	単位数	1
学 年	2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）				
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート 改訂版（大修館書店）				
授業の概要		思春期から中高年期までの健康に関わる事柄について学ぶとともに、私たちの健康を支えている保健・医療のしくみや、それらの活用の仕方について学びます。また、健康に関連する環境・食品の問題や、働くことと健康の関係などを中心に授業を展開します。				
授業の目標		1 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てます。 2 心身の健康や安全に関する問題解決を目指し、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断できる力を身に付けます。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	2 生涯を通じる健康 (1) 思春期と健康 (2) 性意識と性行動の選択 (3) 結婚生活と健康 (4) 妊娠・出産と健康 (5) 家族生活と人工妊娠中絶 (6) 加齢と健康 (7) 高齢者のための社会的取組		・私たちの心と体は、年齢とともに変化していき、また、健康のために私たちや社会がすべきことも、それにともなって変化することを理解します。 ・生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があることを理解します。		
	2 学 期	(8) 保健制度とその活用 (9) 医療制度とその活用 (10) 医薬品と健康 (11) さまざまな保健活動や対策 3 社会生活と健康 (1) 大気汚染と健康 (2) 水質汚濁・土壌汚染と健康 (3) 健康被害の防止と環境対策 (4) 環境衛生活動のしくみと働き		・生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを理解します。 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあることや、それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解します。		
	3 学 期	(5) 食品衛生活動のしくみと働き (6) 食品と環境の保健と私たち (7) 働くことと健康 (8) 労働災害と健康 (9) 健康的な職業生活		・食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解します。 ・労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解します。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		運動の技能	
	・健康の保持増進について関心を持っているか。仲間と協力して資料を集め、意見交換をしている。		・自分のこれまでの学習や体験、資料などを基にしたり、他人の意見や考えを聞いたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断している。		・適切な生活行動を選択し実践すること必要であることを理解し、問題解決に役立つ知識を身に付けている。	
備 考	3つの観点に基づき、学期ごとに 100 点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	外 国 語		科 目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	5	
学 年	2 年		類 型	情報ビジネス科A類型			
教科書（出版社）		Revised BIG DIPPER English Communication II（数研出版）					
副教材（出版社）		ZOOM ENGLISH GRAMMAR 27 Lessons（第一学習社）、 Hyper Listening Pre-Inter mediate（桐原書店）、英文法・語法 Engage（いっずな書店）					
授業の概要		1 予習として、単語やイディオムの意味を辞書で調べて内容の概要を把握しておく。 2 授業では、予習の段階で分からなかった箇所の説明を聞いてノートを取る。 3 ペアワークやグループワークなどを通して自己表現を行う。					
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 聞いたり読んだりしたことや学んだことや経験したことに基づいて、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標			
	1 学 期	Lesson1	Washoku Around the World	・高校1年生で既習の文法事項を復習しながら、日本人としての自分や世界の中の日本について考える題材を通して必要な情報を的確につかみ、簡単な自己表現活動につなげる。 ・学習のポイントは、SVC、SVO、SVOOの各文型、受動態、関係詞の継続用法および制限用法、未来進行形などである。			
		Lesson2	Chirori, the First Therapy Dog in Japan				
		Lesson3	How Good Is Your Memory?				
		Lesson4	Space Elevator 学習内容についての問題演習				
	2 学 期	Lesson5	Diversity Brings New Products	・新出の文法事項や表現を学習しながら、芸術や心理などさまざまなテーマの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な自己表現活動を行う。 ・学習のポイントは、SVOCの文型、仮定法過去完了、分詞構文、動名詞の意味上の主語、完了不定詞などである。			
Lesson6		Ueno Takahiro: The Dancer in Me					
Lesson7		The France Okaeshi Project					
Lesson8		What Is the True Meaning of Mottainai? 学習内容についての問題演習					
3 学 期	Lesson9	Fair Play in Sports: What is “Fair”?	・新出の文法事項や表現を学習しながら、環境や教育など普遍的なテーマの題材を通して必要な情報を的確につかむ。 また、その情報をもとに意見を交換し合う。 ・学習のポイントは、同格を表すofとthat、未来完了時制、無生物主語の構文などである。				
Lesson10	Floating Education 学習内容についての問題演習						
観 点 別 評 価	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		外国語表現の能力		外国語理解の能力		言語や文化についての知識・理解
	相手の話に関心を持ち、相手の意見を尊重しながら、積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。		読んだり聞いたりした題材をもとに、簡潔に英語で意見をまとめて書いたり、意見を発表したりすることができる。また、聞き手に伝わるように音読することができる。		聞いたり読んだりした英語の題材について概要や要点をとらえることができる。また、そのために必要な語句や表現、文法事項などの知識を活用することができる。		英語の音声的な特徴や英語を使用している人々の文化的背景について理理している。また、語句や表現、文法事項などの知識を身に付けている。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		家 庭	科 目	家庭総合	単位数	2
学 年		2 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書（出版社）		家庭総合 ～自立・共生・創造～ （東京書籍）				
副教材（出版社）		家庭科ノート（愛媛県高等学校家庭科教育研究会）				
授 業 の 概 要		（１）人の一生と家族・家庭（２）子どもや高齢者との関わりと福祉（３）生活の科学と環境（衣生活）（４）消費生活と環境（５）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の５項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に有機的な関連を図りながら展開する。				
授 業 の 目 標		１ 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、衣生活、消費生活に関する知識と技術を総合的に習得する。 ２ 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 ３ 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	○高校の家庭科について １ 経済生活を営む （１）職業生活を設計する （２）計画的に使う （３）国民・国際経済と家庭の経済生活 （４）消費行動と意思決定 （５）現代の消費社会 （６）消費者の権利と責任 （７）これからの消費生活と環境 ○ホームプロジェクトについて		・家庭科で何をどのように学ぶか、学習活動について知る。 ・ホームプロジェクトの計画 ・家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ・国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ・契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・消費者の権利と責任を理解する。 ・持続可能な生活について考える。		
	2 学 期	○ホームプロジェクトの発表 ２ 衣生活をつくる （１）衣服をつくる （２）衣服の役割を考える （３）衣服を入手する （４）衣服を管理する （５）衣生活の文化と知恵 （６）これからの衣生活 ３ 子どもと共に育つ （１）命を育む （２）子どもの育つ力を知る。		・平面構成と立体構成の違いを学ぶ ・被服製作の基本事項を確認し、自分に合った被服の製作ができる。 ・被服の様々な役割を理解する。 ・被服材料の特徴を理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。 ・出産前後の健康管理と子どもの発達の様子・発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わり大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的生活習慣の形成、健康管理について学ぶ。		
	3 学 期	（３）親として共に育つ （４）これからの保育環境 ４ 自分らしい人生をつくる （１）生涯発達の視点 （２）青年期の課題 （３）目標を持って生きる （４）人生をつくる （５）家族・家庭をみつめる （６）これからの家庭生活と社会 ５ 高齢社会を生きる （１）高齢期を理解する （２）高齢者の心身の特徴 （３）高齢者を支える （４）これからの高齢社会		・愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解し、生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめる。 ・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ・家族・家庭の基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。 ・家事・職業労働の特徴からワークライフバランスを考える。 ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の特徴を知り、個人差が大きいことを理解する。 ・高齢者を支援する具体的施策や福祉について学ぶ。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	知識・理解
	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むと共に、実践的な態度を身に付けようとしているか。		人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考し、適切に判断し、工夫創造する能力を身に付けているか。		人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けているか。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境など、生活を充実向上するために必要な知識を総合的に身に付けているか。
備考		４つの観点に基づき、各学期ごとに 100 点法で評価し、学年末には各学期の評定を平均し、総合的に評価する。				

教 科		商 業		科 目	原価計算	単位数	2
学 年		2 年		類 型	情報ビジネス科A類型		
教科書（出版社）		原価計算 新訂版（東京法令出版）					
副教材（出版社）		完全段階式標準検定簿記問題集原価計算（東京法令出版）					
授 業 の 概 要		製造業における工業簿記の記帳法と、原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得する。 また、原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を身に付ける。					
授 業 の 目 標		1 原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付ける。 2 製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深める。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念と原価計算 第2章 製造業における簿記の特色としくみ 第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算と記帳 第2章 労務費の計算と記帳 第3章 経費の計算と記帳 第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算 第1章 個別原価計算			・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色としくみについて学び、原価計算の概要について理解する。 ・材料費、労務費及び経費の計算と記帳をとおして、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算について学び、原価の部門別計算と製品別計算の行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学 期	第2章 原価の部門別計算 第3章 総合原価計算 第Ⅳ編 製品の完成・販売と決算 第1章 製品の完成と販売 第2章 本社・工場会計 第3章 製造業の決算 第Ⅴ編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と手続き			・製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算について学び、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成をとおして、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
	3 学 期	第2章 原価差異の原因別分析 第3章 損益計算書の作成 第Ⅵ編 原価情報の活用 第1章 利用計画と直接原価計算 原価の変動費と固定費の分解 安全余裕率の算定 記帳練習			・直接原価計算の目的と損益計算書の作成及び短期利益計画について学び、直接原価計算の有用性について理解する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解
	原価計算に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。		様々な原価計算について、それぞれの意義や計算・記帳方法を理解し、適切な判断に基づいて利用できている。		算出された数値や記帳された帳簿から得られる原価情報を、適切に活用することができる。		基礎的・基本的な原価計算に関する知識と仕組みを理解するとともに、各種の数値の算出や帳簿の記帳ができる。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。 また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	情 報 処 理	単位数	2	
学 年	2 年		類 型	情報ビジネス科A類型			
教科書（出版社）		新訂版 最新情報処理 （実教出版）					
副教材（出版社）		全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集(実教出版)					
授 業 の 概 要		表計算ソフトウェアとワープロソフトを活用し、ビジネスにおける情報の処理や活用を実践する。					
授 業 の 目 標		1 ビジネスと情報処理について理解し、情報活用能力を高める。 2 各種ソフトウェアの活用に習熟し、高度な資格取得を目標にする。 3 正しい情報モラルについて理解し、実践できる能力を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標			
	1 学 期	4 章 ビジネス文書の作成		・ビジネス文書を作成するために必要な基本的知識や技術を習得する。			
	2 学 期	4 章 ビジネス文書の作成		・ビジネス文書を作成するために必要な基本的知識や技術を習得する。			
	3 学 期	5 章 プレゼンテーション		・ビジネスに関する情報の収集・処理・分析を行い、報告書や提案書を作成し、プレゼンテーションを行うために技法を身に付ける。			
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解
	ビジネスにおける情報の役割に関心を持ち、科目「情報処理」を学ぶことによって積極的に情報を活用するための知識・技術を習得しようとする意欲を示す。		ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。		情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。		情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	ビジネス情報	単位数	3
学 年		2 年		類 型	情報ビジネス科A類型		
教科書（出版社）		ビジネス情報 新訂版（実教出版）					
副教材（出版社）		全商情報処理検定 模擬試験問題集 ビジネス情報1級（実教出版）					
授 業 の 概 要		1 ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理・分析・活用する知識や技術を習得する。 2 積極的にコンピュータを活用し、エンドユーザコンピューティングを推進する創造的な能力と態度を身に付ける。					
授 業 の 目 標		1 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを実際のビジネスの現場で活用するための技術を習得する。 2 情報化社会におけるコンピュータの優位性を理解し、積極的に活用する姿勢を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 ビジネスと情報 第2章 情報通信 ネットワークの活用			・現代のビジネスの実例を通し、ビジネスにおけるICT活用の基本的な知識を習得し、この科目を学ぶ目的や狙いを理解する。 ・ネットワークの構築についての基礎的な知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバの管理やセキュリティ管理などの技術を身に付ける。		
	2 学 期	第3章 表計算ソフトウェア の活用 第4章 データベース ソフトウェアの活用			・表計算ソフトウェアを活用して、様々なビジネスの情報を管理・分析し、業務に役立つ合理化や自動化についての知識・技術を身に付ける。 ・リレーショナル型データベースを活用して、データベースの検索機能についての知識や技術、データベースを操作するためのSQL言語を習得する。		
	3 学 期	第5章 ソフトウェアを活用 したシステム開発			・ビジネスに関連した情報システムの開発について、基礎的な知識と技術を習得する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解
	ビジネスの諸活動において、情報を主体的・積極的に活用し、将来、職場における情報活用のリーダーとなる意欲と態度を持っているか。		適切な手段を用いて情報を収集・処理し、要求に応じた適切なシステム開発の要件を整理するなどの思考・判断力・表現力を身に付けているか。		ビジネスにおける情報活用に必要な、情報の分析手法、システム開発、ネットワークの構築などの技能を身に付けているか。		ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解するとともに、ビジネスにおける情報活用を実践するために必要な知識を身に付けているか。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	プログラミング	単位数	3
学 年		2 年		類 型	情報ビジネス科A類型		
教科書(出版社)		最新プログラミング(実教出版)					
副教材(出版社)		情報処理検定模擬試験問題集(プログラミング1級)					
授 業 の 概 要		マクロ言語におけるプログラミングの学習を中心に行う。その中でコンピュータでのデータ処理やビジネスの活動に必要な能力・態度を見に付ける。					
授 業 の 目 標		1 コンピュータを使ったデータ処理の仕組みについて習得する。 2 プログラミングに関する知識と技術を習得する。 3 体験的学習を通して創造力や論理的な思考力を育成する。 4 ビジネスの諸活動において、情報を合理的に処理しコンピュータを効果的に活用する能力と態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容(単元・項目)			学 習 目 標		
	1 学 期	1章 コンピュータとプログラミング 2章 プログラミングの手順 3章 プログラミングの基礎 4章 報告書の作成			・ ビジネスの諸活動と情報処理システムの関わりについて関心を持ち、データ処理の仕組みや役割の重要性を理解する。 マクロ言語の特徴やプログラミング手順を把握する。 ・ マクロプログラムの基礎的・基本的な技法を身に付けるとともに、ビジネスの諸活動におけるプログラミングの意義について理解を深める。 ・ プログラミングに必要なハードウェアの操作技術を身に付ける。 ・ プログラムを作成する意義を理解し、各種の応用的なプログラミング技法を身に付ける。		
	2 学 期	5章 テーブルの利用 6章 ファイル処理			・ テーブルの意義を理解する。 ・ テーブルを利用した各種のプログラミング技法を身に付けるとともに、テーブルの有用性について考察を深める。基本的なファイルの種類を理解するとともに、データチェックの重要性について考察を深める。 ・ ファイル処理の各種技法を身に付けるとともに、発生したデータがファイルに集められ処理されていく過程について理解する。		
	3 学 期	7章 イベント駆動型プログラム 8章 ハードウェア・ソフトウェア			・ 視覚効果に富み販売促進等に有効な、ビジュアルで新しいプログラムについて理解する。 ・ コンピュータの利用にあたって必要な、ハードウェアとソフトウェアに関する知識を身に付ける。 ・ 高度情報化社会を生き抜くために必要な情報活用能力の重要性を理解するとともに、情報社会に参画する上での望ましい態度について考察を深める。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解
	コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングに関心をもち、ビジネスの諸活動によって生じた情報を合理的に処理しコンピュータを効果的に活用することができるか。		ビジネスの諸活動によって生じた情報を的確に把握し、プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を活用して、効率的なプログラムを作成するために、様々な角度から考察できるか。		プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、基礎的なプログラムを作成することができるとともに、応用的な技術をさらにすすんで活用しようとするか。		コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、ビジネスの諸活動に関する情報を合理的に処理し、活用する方法を理解できるか。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

